

ツアー商品販売 市場絞る工夫を

エコツアーリズム国際大会

エコツアーリズム国際大会で活躍する観光資源研究会・沖縄(主催)・同実行委員会(共催)は三日目の十三日、宜野湾市の沖繩コンベンションセンターで五つのパネルディスカッションを開いた。県内外の専門家が参加。工夫を凝らしたエコツアーの販売促進で「ビーチリゾート」の魅力を広げることがを求めている意見が出された。

「エコツアーの商品・流通・販促」をテーマにした分科会では、SPA大量販売に流れている

エコツアーなどを取り扱う余地が少なく、多様化する消費者ニーズとのミスマッチが起きると懸念した。

風の旅行社代表取締役の原優二氏は「旅行業界の分業化を止めるべきだ。旅行社の企画担当者が直接現地に行き、信頼を得る必要がある」と強調。JTB東日本エース事業部長の塚本博氏は「代金が割高になるだけの価値を消費者に説明する必要がある」と、パンフレットの工夫を挙げた。

同大会は最終日の一日、沖縄言を採択して閉幕する予定。

説明

王荒 王求 桑斤 幸辰

2002年(平成14年)12月1日 日曜日

エコツアーリズム

ガイド育成など課題

国際大会 3日目 産業化に疑問の声も



地域振興とエコツアーリズムを主題に開かれたフォーラム=30日、沖繩コンベンションセンター会議棟

エコツアーリズム国際大会三日目の十三日、会・沖縄(県など)で構成 宜野湾市の沖繩コンベンションセンターで四つの分科会と沖繩のエコツアーリズム構築する実践者フォーラムを行った。

エコツアーリズムは文化運動として、地域振興の有効な手法との意見があった一方で、ガイドの雇用問題も背景に「産業化して成り立つのか」との疑問も示され、可能性と課題で活発に論議した。

実践者フォーラムでは石垣金星氏(西表島エコツアーリズム協会会長)、島袋徳和氏(東村エコツアーリズム協会会長)、大坪弘和氏(座間味村ホエールウォッチング協会事務局次長)、梶原健次氏(平良市経済部水産課)がコメンテーターを務めた。

石垣氏は「エコツアーリズムを通じた地域おこしを自指して協力を発足させた経緯を説明。『豊かな自然を守りながら豊かな地域をつくる』

ていく文化運動と捉えている」と強調した。

梶原氏は宮古島の八重瀬の上陸観光が「さんぽ」礁を踏みつぶしている上批判を浴び、「漁場の保全、観光振興、自然環境の保全の三つの目標は、ルールを厳しくして

経済 (8)

をいかにバランスよく達成するかで取り組んできた事例を報告。地域を知り、自然を守り、質の高い観光を持続させるには地域住民のマンパワーが必要と、人材育成の重要性を説いた。

会場を交えた討論では、県内でエコツアーを企画している旅行業関係者から「自然のキャパシティ(愛宕力)を考えると、エコツアーはビジネスとしての成長が見えず、おのずと限界がある。本道に職業、産業としての疑問の声もあがった。

座間味村の関係者は「ホエールウォッチングで観光客は増えているが、これ以上増えればクジラにストレスを与えかねず、ルールをもっと厳しくすべきとの意見も出ている」とエコツアーが抱える課題を指摘した。

「ガイドの育成とガイドライン策定への取り組み」がテーマの分科会では、ルールを厳しくして

エコツアーに付加価値を付け、高い料金でも参加するという仕組みをつくるべきだ。そうすれば方々の質の向上や雇用確保にもつながる」との意見もあった。

西表島リゾートで論議

開発見直し求める声

エコトリスム国際大会2日目

環境生かし地域振興を

エコトリスム国際大会・沖縄(県)などで構成する実行委員会主催は、2日目の二十九日、宜野湾市の沖繩コンベンションセンター会議棟で「エコトリスムによる地域振興とグリーン・プロダクティブティ(緑の生産性)」をテーマにパネルディスカッションを行った。この中で、西表島で進むリゾート開発計画について、「開発と環境保全、エコトリスムを考える上で重要な研究事例」との指摘があり、海外参加者も含め会場から開発計画の見直し、規模縮小を求める声も相次いだ。



地域振興と環境保全の調和について考えたパネ
ルディスカッション。29日、宜野湾市の沖繩コ
ンベンションセンター会議棟

討論は日本エコトリスムを交差議論が展開。日本
ズム協会事務局長の小林
天心氏をコーディネータ
のな存在ともいわれる西
に、沖繩観光コンベン
表島で進むリゾート開発
ションビニロー理事長
計画(定数数百五十
の機波正之氏、アジア生
産性機構環境部長のオ
今年八月に西表島を訪
ガステイン・コー氏、日
れたというマレーシアか
本観光協会調査企画部長
らの男性参加者は「西表
島の環境保全に関する総
合的な計画がないのが心
を移めた。

開発による生活水準の
向上と環境との調和をど
う図るか、それに地域住
民がどうかかわっていく
べきかを中心に、フロア
も、計画客室数の多さに

疑問を呈し、「環境が持続
可能なよう計画を修
正すべきだと主張した。
かしつ、いかに地域振
興を図るかが問われてい
が多く「滞在型」が課題
と強調。

古賀氏は「景観的にも
経営的にも適正規模はど
く、情報公開の必要性を
説いた。



やんばるの魅力確認

環境意識の必要性指摘も

エコトリスム国際大会2日目

【北部】エコトリスムや文化など沖縄の素材の
△国際大会・沖縄(同)実
行委員会主催、会長北福
嶺忠一(県知事)は「一目
の二十九日、参加者が
八ヶ岳に分かれて東
村や国頭村、大宜味村
名護市など本島北部でエ
コトリスムのフィールド視
察を行った。国内外から
訪れた参加者は、県内
のエコトリスムの内容やフ
ィールドの現状などを確
認。参加者からは、自然

エコトリスムのツアー内容やフ
ィールドを確認する大会
参加者ら29日午後、大宜味
村喜如嘉

会が行われ、関係者が
親しく深めた。
三日目の三十日は、宜
野湾市の沖繩コンベン
ションセンターで「経済
振興」と「多様性、独自
性の維持」をテーマに、
分科会を行う。

の案内で確認。喜如嘉
コースには約一千人が参
加し、芭蕉布会館などを
訪れ、制作工程を具学
した。視察後は、東村の
つつじエコパークで交流